

北陸道トコトコ道中記

< 京都 ～ 新潟県長岡 500km > T2 高鍋 学

今年の歩き旅は、10月26日に京都を出発し、滋賀県・福井県・石川県・富山県を経て11月13日、目的地の新潟県長岡市に無事到着した。移動日も含めて20日間、500kmの旅だった。この春は忙しくて歩き旅をしていないので、昨年秋の熊野古道以来1年ぶりとなる。

I 第1日～第4日 京都市・滋賀県（高島市）・福井県（敦賀市）103km 4日間

京都から滋賀県の大津へは、銀閣寺近くから山中越の山道に入り、途中で比叡山ドライブウェイ・ゲートの前を通過して大津に下りた。大津から琵琶湖岸沿いを南北に貫く国道161号（西近江路）を経て、福井県敦賀市に至る。

リュックサックは5kg。北陸道なので雨具や下着が増えていつもより重くなり、しっかりした計画もトレーニングもできなかったため、不安を抱えての出発と

なった。こんなときは大声を出すのが一番だ。誰もいない道や車の往来が激しい道を歩きながら、発声練習や「最上川舟歌」や「斎太郎節」を大声で歌った。

近江舞子で泊まったゲストハウスは「J・ホッパーズ琵琶湖」。共同の広いダイニングや脱衣室の付いた個室のシャワールームなどが整備され、対応もよかった。金沢でも同じような「金沢カプセルホテル武蔵町」に泊まった。大風呂はなくて個室シャワールームが8個ほどあった。外国人観光客が増えるなか、このタイプのゲストハウスは今後も増えそうだ。

近江今津には古い町並みが残っていた。大きなお寺が多いので、昔は大いに栄えたのだろう。今津から湖北のマキノまで、松並木が続く湖畔の遊歩道が整備されていて美しい道だった。自転車の人も多かった。

マキノからは峠越えをして、日本海に面する福井県敦賀市に入る。湖北から敦賀へは20km余りで、半日で行ける距離だ。その昔は京都や大阪へ向けて敦賀の海産物や北前船の交易品などが盛んに行き交い、さぞ賑やかだっただろう。その峠にある「願力寺」の庭で休憩させてもらっていると、中から住職の奥さんが出てきて、お茶とお菓子を出してくれた。今は檀家も減り、すっかり寂しい地域になってしまった、と。



<琵琶湖 サイクリングロード>

この日の宿は敦賀市中心街だが、着いたのが15時なので宿入りはまだ早い。次の日は距離が長く、少し距離を縮めておくために5kmほど先に進み、バスで市内に戻ってきた。

1日に歩く距離は25kmから30kmにしているが、到着地に宿がない時がある。その場合は、到着地から電車やバスで宿のある所に行き、翌日の朝、前日の到着地点に戻って歩き始めることにしている。今回はこの方法を採用することが多かった。



Ⅱ 第5日～第7日 敦賀市・越前市・福井市・石川県（加賀市）83km 3日間

敦賀から越前市武生までは電車を利用した。武生まで国道8号に行く計画だったが、8号は海岸沿いに北上しながらその間には大小のトンネルが10余りもある。前日、敦賀市街の先へ足を延ばした際、約250mと650mのトンネルを通り抜けた。どちらも古くて歩道はないうえに、路側帯は狭くて埃が積もっている。通行量も多く大変危険だった。そこから先の海沿いのトンネルとなれば、もっと状態は悪いと判断したので中止することにした。10年余りの歩き旅で、間を飛ばしたのはこれが初めてだ。

空いた1日はあいにくの雨だったが、レンタサイクルで「気比の松原」や「市立博物館」など敦賀市内観光をして過ごした。お昼に食べた「日本海さかな街」の海鮮どんぶりの魚はもちろん、キラキラ光るご飯が絶品だった。午後、JRで武生に移動。次の日、越前市武生から鯖江市を通過して福井市に向かった。

武生は役所や街並が古くて寂れた印象だったが、隣町の鯖江市は一転して道路も広く、街並も明るく公園も見事に整備されていた。この格差はいったい何だろう。

もうすぐ福井市街という所でショッピングセンターに入り、昼食をすませ、歩き始めて30分ほど経ってから、方角が90度違うことによりやく気づいた。センターに入った時のドアとは違うドアから出たので間違えてしまった。1時間余り余分に歩いてくたびれたが、回り道の途中で「おさごえ民家園」などを眺めることが出来たのでよしとしよう。



<福井市 九頭流大橋>

この1週間の体調は、出発して3日目から足が酷く痛みだした。豆だけではなく、靴が合わなくて指先が圧迫されるのだ。新しい靴だったが、これまで履いていた靴と同じ型の靴なので油断していた。足が痛くて不自然な歩き方をするので、疲労が激しい。

福井県あわら市の牛ノ谷峠を越して石川県加賀市に入った。

Ⅲ 第8日～第10日 小松市・能美市・金沢市・富山県（小矢部市）78km 3日間

加賀市大聖寺だいしょうじから金沢までは小松を経て2日の行程。北陸の国道8号沿線は、建設ラッシュだった。金沢から敦賀までの新幹線建設や、町を一変させているバイパスや道路の大幅な拡幅工事が進んでいる。新しいコンビニも多く目についた。これまで取り残されていたのだ。

ここまでずっと足が痛く疲労も激しかったが、10日目の朝から急に痛みが薄れ身体も軽くなった。靴や身体がようやく慣れてきたのだろう。これまででは5日間程度で慣れたが、今回は倍の日数がかかった。



<源平合戦の倶利伽羅峠>

その10日目は、金沢から津幡つばたを経由して富山県石動いするぎまで28km。津幡から歴史国道北陸道という倶利伽羅峠くりにからとうげのある山道を通る計画だ。午後から雨の予報だったので、先に津幡から石動までの

山道を歩いてから電車で津幡に取って返し、津幡から金沢まで歩いて戻ることにした。歴史国道北陸道は予想どおり魅力ある道だった。午後、金沢に向かう途中からぼつぼつ雨が落ちはじめた。

そこで信じられないミスをした。金沢まで後1時間となった所で、1本道の国道に面したコンビニに入った。周囲はもう暗くなっていて雨も降っている。コンビニを出てそのまま歩き始め、そろそろ金沢の街の光が見えてもよさそうなのに気配がない。不安になって人に尋ねると、元来た道を30分も戻っていたのだ。先日の方向違いより重症だ。雨も激しくなり電車に乗ることも考えたが、気を取り直して歩いた。結局この日は12時間歩き、歩数は63,000歩だった。昨日までの体調だったら多分電車に乗ったと思う。

IV 第11日～第14日 射水市・富山市・魚津市・新潟県(糸魚川市) 105km 4日間

富山県石動から富山市に向かう道は、国道8号を離れて県道9号(上使街道)を採った。砺波平野の真ん中を東西に長く延びており、農道を兼ねた歩道は広く、車も少なくて快適だった。遙か彼方の正面に立山や劔岳を擁する北アルプスがあり、進むにつれてそれが段々と高く大きく見えてくる。この夏、立山頂上に登ったので眺めも格別だ。ここから新潟県糸魚川に入るまでの4日間、刻々と変化する北アルプスの山容を楽しむことができた。

富山に着いて「あいの風とやま鉄道」(元JR)と「富山地方鉄道」の時刻表を手に入れ、ようやく目的地長岡までのスケジュールを立てることができた。富山から先は宿のない地域が多く、宿との往復に鉄道が欠かせない。

13日目頃にはすっかり身体が慣れ、無念無想し、一定スピードで黙々と歩く感覚が蘇ってきた。

富山市からは、海沿いの県道を通って滑川、魚津、黒部と進み、市振の境橋を渡って新潟県糸魚川市に入った。いよいよ親不知おやしらずの道だ。ここは飛驒山脈(北アルプス)の北端が日本海に沈み込んでいる場所で、昔から交通の難所として知られている。



<魚津市 北アルプスの朝焼け>

14日目の午後、断崖を削り、空いている海側を柱で支える形のトンネルに着いた。入口付近で様子を見ると、歩道はない。大型トラックや2連結のトレーラーなどが長い列をなして並んでいる。しかし、ここは行くしかない。幸運だったのはトンネル内が補修工事中で、片側交互通行になっていたことだ。対向車の車列が通過し終わり、こちらに並んでいた車列がトンネルに入り終わった直後に、ガードマンが「行け」と合図をしてくれた。トンネルは何時ものように右側を歩いていると、車列の最後尾を確認する車が寄ってきて、次に前方から来る車列は右車線を来るので左側を進めと注意してくれた。工事の人達にとってはさぞ迷惑だったろう。道は海岸に沿って造ってあるのでカーブが多かった。

次に現れたのは、通常のトンネルで734mの天険トンネル。ここは交互通行になっておらず歩道もない。大型車両がひっきりなしに行き交っている。数年前、北海道で同じように古い「稲葉トンネル」1,230mを通ったが、交通量とトラックの大きさが違う。どうするか迷っていると、入口の横に旧道の迂回路があった。無事、親不知駅(えちごトキめき鉄道日本海ヒスイライン・旧JR)に到着。電車で魚津に戻った。

V 第15日～第20日 上越市・柏崎市・長岡市 130km 6日間

15日目、親不知駅から直ぐに片側が空いた長いトンネルが3つ続いたが、ここも工事中だったので前日のようにして歩いた。緊張して歩きに歩いたので、終わったときにはへたり込んでしまった。

次の日、糸魚川から上越市直江津に向かう道は、海岸沿いを走る国道から一段高い場所にある「久比岐自転車歩行者道路」を歩いた。昔の鉄道跡地をそのまま利用しているのので、改装されたトンネルもあって贅沢な道だった。

この日の宿はこの旅初めての旅館。谷浜駅前の4坪田旅館に泊まった。旅館は直ぐに風呂に入れ、食事準備してくれる。これまでは3食ほとんどコンビニ弁当とおにぎりとおパンだったので、旅館のちゃんとした食事はありがたい。おまけに夕食は大きなカニが丸ごと一匹つき、カニの味噌汁も美味しく、豪華な食事を1時間かけて完食した。対応も親切で1泊2食の宿代が7,800円と聞いて安いのに驚いた。



<親不知 トンネル>

それに引き替え、今回致し方なく3泊したアパホテルはいけない。同じビジネスホテルの東横インと比較して、部屋の広さは変わらずサービスは劣るのに料金は高い。魚津で2泊した際、素泊り朝食サービスなしで1泊目は6,000円、次の日は7,500円、と変動料金制だ。どの部屋も社長の著書やオピニオン雑誌が狭い机を占拠しているのは如何なものか。

新潟県を歩いていると、糸魚川や直江津や柏崎などの比較的大きな町でも、鉄道駅は真新しいのに、街はどこも寂しい感じがした。

柏崎から目的地長岡までのルートは国道8号ではなく、信越本線とほぼ並行する県道を選んだ。ところが、途中でまた道を間違えてとんでもない山道に入ってしまう、熊出没の表示もあって心細かったが、スマホのGPSのお陰で抜け出すことができた。



<柏崎市 鯨波宮川線の峠にて>

長岡には夕方到着。目的地を長岡にしたのは、10数年ぶりに会社時代の友人と会うためだった。彼が指導を続けている長岡商業高校吹奏楽部の練習を見学した後、飲み屋で歓談。今もトランペットは上手く、元気だったのがうれしかった。

20日目最終日の朝。長岡駅の近くにある河井継之助と山本五十六の記念館の建物、米百俵の小林虎三郎の碑などを見て回り、上越新幹線と東海道新幹線を乗り継いで神戸に戻った。

※ 旅を終えて

ここ数年、四国八十八カ所や熊野古道を歩いていたので、一般道を歩く街道歩きは久しぶりだ。街道歩きは四国遍路や熊野古道などのような険しい道はないけれども、車の騒音や歩道がない道や危険なトンネルなどがあって疲れる。それでも雨上がりの朝、勇んで歩き始める時の清々しい気分は最高だ。

今回の旅の特徴は、宿の出発をこれまでより1時間早い7時にしたので、日没に遭う日が少な

くて済んだこと。歩道のない古いトンネルが多く、ヒヤヒヤしたこと。GPSを使いこなせるようになったこと。北アルプスの山々が印象的だったこと。などが挙げられる。

旅先ではいつものように妻と連絡をとって、メールでやり取りをしている。敦賀から「この先危険なトンネルが続くのでこの間をパスします」、とメールした時は「逃げずに頑張ってくださいね」、と励ましてくれた。親不知を前にして躊躇^{ちゆうちよ}していた時は「今度こそ勇気を出して行ってください、貴方なら出来ます」、と背中を押してくれた。こうした優しい妻の励ましがあつたればこそ、最後まで諦めずに旅を終えることができたといえる。戻って妻に礼をいうと「無事で何よりでした」、と笑顔で労ってくれた。ただ、目は笑ってなかった。